

1 今年（H29）の傾向

総評・講評（大問毎に）

1. 平易な血糖量調節問題であった。問7, 問8は教科書では触れられていない内容であり、本来であれば、実験考察形式の問題とするべきではないかと思われる。

2. 基本的なDNAの転写・翻訳、PCR法に関する出題であった。本来なら教科書レベルの知識から考察を発展させ、生物学的理解を深めるような出題が必要ではないか。

3. 例年通り、集団分野からの出題である。〔I〕の標識再捕法は見慣れた問題であり、〔II〕〔III〕の集団遺伝問題は久しぶりの出題であった。集団遺伝問題は計算量が多いので、時間が足りなくなったのではと思われる。ただ〔III〕は、〔II〕とは関係なく解答できる内容なのでこちらを先に解く方が効率的であった。

①用語問題が多く、基礎的な知識が求められ、考察問題の得点割合は減少傾向にある。

②新カリ3年目になるが、昨年と同じく新カリの内容は出題されていない。

③近年、問題文・図表をしっかりと読み込まないと解答できない問題は少なくなっているが、今年も出題されており、論理的思考が求められている。

④東北大の記述の解答欄は、文字数制限の緩い解答枠方式であったが、昨年に引き続き今年も文字数指定での解答を要求する方式が大問1, 2で取られており、定着したものと考えてよい。

⑤文字数の制限がある問題では、文字数枠に解答文を納めるためにかなりの時間を必要とされ、想定以上の解答時間がかかってしまうことを覚悟しなければいけない。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	％
教育学部	％
法学部	％
経済学部	％

【理系】

理学部	80％	歯学部	65％
工学部		薬学部	
医学部	85％	農学部	75％
保健／看護	65％		
〃 検査	65％		
〃 放射線	65％		

3 来年受験する生徒へのアドバイス

1 基礎的知識の定着と総合力の養成

教科書レベルの基本事項の習得と典型問題の演習の徹底が最優先である。東北大学の生物(前期)では、基本的知識を問う設問が多く、確実に得点する必要がある。また、本年の大問 3 のように近年あまり出題されていなかった範囲からの出題もあり得る。生物基礎ならびに生物の内容をムラなく学習し、知識を体系付ける姿勢が大切である。

実験によって得られたデータを読み解く問題も頻出であり、過去問や類題を中心に演習を行う必要がある。その際には漠然と問題数をこなすのではなく、データの解釈の仕方や、前提として求められている知識について、きちんと理解・整理しながら進めることが重要である。要点を簡潔にまとめあげる記述力も必須で、参考書や過去問を利用し 50～100 字程度で記述する練習をしておきたい。

2 過去問について

近年、東北大入試の生物では3題構成で続いているが、出題範囲は広く、出題内容も多様であり、今後もその傾向は続くと思われる。過去問演習を通して東北大の生物について精通することはもちろん、傾向が似ている弘前大学の問題や、問題量が多く思考力を要する山形大学の問題なども活用し、臨機応変に対応出来る柔軟な思考力を養って欲しい。